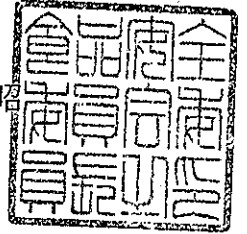




府食第1191号
平成17年12月15日

厚生労働大臣
川崎 二郎 殿

食品安全委員会
委員長 寺田 雅昭



食品健康影響評価の結果について

平成16年10月1日付け厚生労働省発食安第1001001号及び平成17年9月30日付け厚生労働省発食安第0930005号をもって貴大臣から当委員会に対し意見を求められた食品の安全性のうち、L-アルギニンについては「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準」の附則「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物のうち、アミノ酸等の最終産物が高度に精製された非タンパク質性添加物の安全性評価の考え方」に基づき、安全性を確認し、「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準」(本則)による評価の必要はないと判断しました。

また、「ワタ281系統とワタ3006系統とラウンドアップ・レディー・ワタ1445系統を掛け合わせた品種」(ダウ・ケミカル日本株式会社)については「遺伝子組換え植物の掛け合わせについての安全性評価の考え方」に基づき評価した結果、ヒトの健康を損なうおそれはないものと判断しましたので通知します。

なお、審議結果については、別添のとおりです。

遺伝子組換え食品等評価書

ワタ 281 系統とワタ 3006 系統とラウンドアップ・レディー・ワタ 1445 系統を掛け合わせた品種

2005年12月

食品安全委員会

〈審議の経緯〉

平成17年 9月30日	厚生労働大臣から遺伝子組換え食品等の安全性確認に係る食品健康影響評価について要請、関係書類の接受
平成17年10月 6日	第114回食品安全委員会（事項説明）
平成17年11月21日	第34回遺伝子組換え食品等専門調査会
平成17年12月 5日	第35回遺伝子組換え食品等専門調査会
平成17年12月14日	遺伝子組換え食品等専門調査会座長から食品安全委員会委員長へ報告
平成17年12月15日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣に通知

〈食品安全委員会委員〉

委員長	寺田雅昭
委員長代理	寺尾允男
	小泉直子
	見上彪
	坂本元子
	中村靖彦
	本間清一

〈食品安全委員会遺伝子組換え食品等専門調査会専門委員〉

座長	早川堯夫	
座長代理	澤田純一	
	五十君静信	手島玲子
	池上幸江	丹生谷博
	今井田克己	日野明寛
	宇理須厚雄	室伏きみ子
	小関良宏	山川隆
	澁谷直人	山崎壮
		渡邊雄一郎

「ワタ281系統とワタ3006系統とラウンドアップ・レディー・ワタ1445系統を掛け合わせた品種」に係る食品健康影響評価に関する審議結果

申請品種名：「ワタ281系統とワタ3006系統とラウンドアップ・レディー・ワタ1445系統を掛け合わせた品種」

性 質：除草剤グルホシネート及びグリホサート耐性、チョウ目害虫抵抗性

申 請 者：ダウ・ケミカル日本株式会社

開 発 者：Mycogen Seeds/Dow AgroScience LLC./ Monsanto Company (米国)

1. 申請品種の概要

申請品種については、除草剤耐性及び害虫抵抗性の形質が付与された2系統と除草剤耐性の形質が付与された1系統を従来からの手法で掛け合わせたものである。掛け合わせる前のワタ281系統、ワタ3006系統及びラウンドアップ・レディー・ワタ1445系統の各系統については、それぞれ安全性の評価は終了しており、いずれもヒトの健康を損なうおそれがあると認められないと判断されている。

2. 食品健康影響評価結果

① 挿入された遺伝子によって宿主の代謝系に影響なく、除草剤耐性、害虫抵抗性の形質が付与されている品種同士の掛け合わせである。

ワタ281系統に導入された *cryIF*(synpro) 遺伝子及びワタ3006系統に導入された *cryIAc*(synpro) 遺伝子により産生される CryIF(synpro) タンパク質及び CryIAc(synpro) タンパク質はいずれも酵素活性を持つことは報告されておらず、植物代謝経路に影響を及ぼすことはない判断される。

また、ワタ281系統及びワタ3006系統に導入された改変 *pat* 遺伝子により産生される PAT タンパク質は、極めて特異的にグルホシネートをアセチル化する酵素であり、高い基質特異性を有しているため、植物代謝系及び新たに使用される可能性のあるグリホサート関連代謝系に影響を及ぼす可能性はないと判断される。

ラウンドアップ・レディー・ワタ1445系統に導入された *cp4 epsps* 遺伝子により産生される CP4 EPSPS(EPSPS: 5-エノールピルビルシキミ酸-3-リン酸合成酵素)タンパク質は、シキミ酸合成経路(芳香族アミノ酸合成経路)の律速酵素ではなく、EPSPS 活性が増大しても、本経路の最終産物である芳香族アミノ酸の濃度が高まることはないことから、その作用機作は独立しており、植物代謝経路に影響を及ぼすことはない判断される。

いずれの形質も、その作用機作は独立しており、ワタ281系統とワタ3006系統とラウンドアップ・レディー・ワタ1445系統の掛け合わせ品種において互いに影響し合わないと考えられる。

② 亜種レベル以上の交配ではない。

掛け合わせた品種は、亜種レベル以上の交配ではない。

③ 摂取量・食用部位・加工法等に変更はない。

ワタ281系統とワタ3006系統とラウンドアップ・レディー・ワタ1445系統、及びそれらを掛け合わせた品種において、摂取量、食用としての使用部位、加工法等の利用目的ならば

に利用方法に変更はない。

以上、①～③の結果から、「ワタ281系統とワタ3006系統とラウンドアップ・レディー・ワタ1445系統を掛け合わせた品種」については、「遺伝子組換え植物の掛け合わせについての安全性評価の考え方」（平成16年1月29日 食品安全委員会決定）に基づき審査した結果、安全性の確認を必要とするものではないと判断される。